

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】

◎サツマイモの生育を知り、ツルの感触の違いを感じながらクリスマスリースを作る。

◎トウモロコシからポップコーンができることを知る。

<テーマの設定理由> (テーマに関する 子どもの興味関心、園の特色 など)

さつまいも堀りに向けて、さつまいもの生育を子ども達に話した。堀りに行った時に、土をどうやって掘ったらよいのか、どこにさつまいもがあるのか不思議そうな表情をしていたと同時に興味関心を持ち始めた。そこで農園の方にツルをもらい、まずはツルから葉っぱを取る作業をした。葉っぱを取ったツルを見て「細長い!」と言ったり、『え、これだけになっちゃった』と表情をしたり、茎の中から白いものが出てきたと様々な発見をしていた。子ども達は普段、廃材コーナーにおいて、さまざまな素材を使いモノづくりをしている。今回はクリスマスに向けて、クリスマスリースを作ることになった。

2. 探究活動の実践

		対象クラス・対象人数							
	実施日	0歳児 クラス (人)	1歳児 クラス (人)	2歳児 クラス (人)	3歳児 クラス (人)	4歳児 クラス (人)	5歳児 クラス (人)	地域 子ども (人)	地域 大人 (人)
①	11月5日					17			
②	11月15日					17			
③	12月3日					17			
④	12月16日				17				
⑤									

活動内容

サツマイモのツルから葉っぱを抜くと、茎から白い液体が出てきた。触った子ども達は、「なんかベトベトとする」と言って手を擦っていた。葉っぱをすべて抜き、保育者と共に一人ずつ、ツルを輪っかにした。ツルの水分がまだ茎に残っていて折れやすく、輪っかにしている間に『ボキ』っと折れてしまうことがあった。輪っかにしたツルを部屋に吊るして乾かした。時折輪っかのツルの様子を観察し、吊るした時よりも小さくなり硬くなっていることを確認する。十分に乾燥させた後に、リボンを巻いたり、フェルトの玉をボンドでつけたりして装飾をする。

調理さんからポップコーンはどうやってできるのかお話を聞き、ベジリンクさんに送っていただいたトウモロコシの実を実際にほぐした。硬さもあり難しさもあったのである程度実をほぐしてからコンロを用意しフライパンに入れて炒めていった。子どもたちはコンロを囲むようにしてポップコーンができる様子を見た。出来上がったポップコーンは全員で食べた。

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり等を記載ください。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等)

活動におけるチェックリスト	
グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促す。	☐
活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録する。	☐
乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行う。	☐
記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返る。	☐
幼稚園・保育所等の各施設の教諭数値・保育者所同士や保護者等に、探究活動の内容を共有する。	☐
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考える。	☐

活動の様子が分かる写真 2 枚 以上 を貼付 してください。

(HP など で 公開する可能性がありますので、公開可能な ものを 使用 ください。)



3. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

サツマイモ掘当日に子ども達が『どこを掘ればいいのか』と手当たり次第に土を掘っていた。ツルから葉っぱを抜くと、白い液体が出てきて、それ自体にも興味を持っていたので、液体が物質なのかも話をする機会をとることができた。ツルを乾かす前と後と大きさや硬さが異なりその違いを知ることができた。リース作りでは、初めてポンドを使った。『白いけど乾かすと透明になる』という物質の性質も知ることができた。毛糸やリボンを巻いたり、フェルトボールをつけたりとそれぞれで楽しみながら装飾していた。

ポップコーンがどのようにできるのかを実際に行いながら知ることができた。最初に実をほぐすことは、硬くて「できない」というような声もあがったが、個人個人でやりたいという気持ちから方法を模索していた為次第にそのような声があがらなくなってきた。「できない」で諦めるのではなく、挑戦をするという経験をするので今後もそのような姿勢を誘っていきたい。

4. 今月の購入実績

[illegible]

記入日： 12月20日

記入者： 五十嵐 絵菜